



## デング熱・ジカ熱・チクングニア熱 予防の啓発ステッカー作成

ニカラグア政府は、雨季が本格化する前に国内でデング熱患者が急増し、複数の死亡例が報告されたことから、5月に疫学的非常事態を宣言し、デング熱だけでなくジカ熱やチクングニア熱を媒介するネッタイシマカへの対策を強化しています。

チョンタレス保健管区では、即時的な対策である殺虫剤散布のほか、長期的な視点に立ち、将来の地域づくりを担う子どもたちに対して、住居の周囲で蚊の発生を防ぐための啓発活動を行うことを決めました。プロジェクトでヘルスプロモーションを指導する日本人短期専門家が、疫学課の担当医とともに小学生を対象とした啓発活動の展開計画の立案とそこで使用するステッカーをデザインしました。

プロジェクトのスローガンである、“Comunidad Sana, Familia Feliz”（健康地域 幸せ家族）から一部の単語を取り出して “Sin Zancudos Familia Sana”（蚊なんかいないぞ 健康家族）この活動の合言葉に決まりました。これをデザインの中心に据えた12種類のステッカー案を準備して、まず、プロジェクトメンバーと疫学医、保健管区労働組合長で第1次審査を行い、候補を6種類に絞りました。チョンタレス保健管区の技術審議会で行った第2次審査で決戦に臨む最終候補2種類が選ばれ、最終審査はフィガルパ市内

の小学校で行いました。子どもたちにとって保健管区が作成するステッカーを自分たちで選ぶというのは初めての経験で、最終審査はおおいに盛り上がりました。この結果、スローガンと共に、ネッタイシマカと闘う男の子と女の子の絵が描かれたものが採用されました。子どもたちに選ばれたステッカーは、現在、発行に向け、保健省で大臣の承認を得る、最終工程に入ったところです。

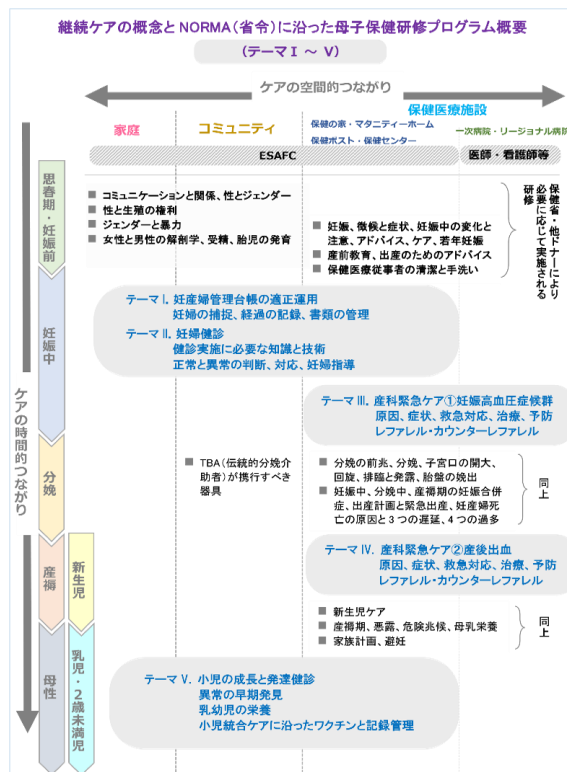
今後の啓発活動は、まず、保健管区の指導で、支所の医師や看護師、媒介虫対策技官などが管轄地域の小学校に出向き、教師と協力し合いながら、蚊が媒介する感染症とその予防方法について、保健省が作成した子ども向けビデオ教材を使った授業をします。この授業を受けた子どもたちは「蚊と闘う正義の味方」の称号とともに、その認定証であるステッカーを授与されます。これを受け取った子どもは家に帰って家族に学習したことを伝え、住居の周りで蚊が発生しないように可能な対策を講じます。ステッカーは、ノートや兄弟の背中などではなく、家の外からでも見えやすい場所に貼り、“この家には蚊対策のスペシャリストがいる”目印とします。家庭保健チームのメンバーや教師は家庭訪問の際に、ステッカーや蚊対策の状態を確認してゆきます。よくできていたらそれを学校や地域の中で具体的に紹介し、継続のモチベーションにつなげてゆくことも大切です。



# 研修プログラム改定とテキスト (試行版) の完成

プロジェクトでは、2015年末までに作成した「妊産婦管理台帳」「産前健診」「妊娠性高血圧症候群」「産後出血」「乳幼児健診」の5項目が、ベースライン調査の分析結果から研修テーマとして適切であることが確認できました。母子保健技術委員会の中の研修プログラム策定グループは、保健省令や各種マニュアル・ガイドの精査を続けるとともに、強化すべき課題を中心に継続ケアの概念と省令に沿った母子保健研修プログラムの概要図を作成し、それをプロジェクト関係者間で共有しました。また、研修テキスト作成グループは、研修テキスト(受講者用)、研修事前事後テスト、ケーススタディなどの教材を作成し、保健省本省、両SILAIS関係者参加のもと、研修教材の検証会議を開催しました。その結果、原稿の修正・加筆が行われ、保健省の承認を得て研修テ

キスト(試行版)が完成しました。



## 第1回ファシリテーター研修

各支所レベルから選出され、家庭地域保健チーム(ESAFIC)に対する研修で講師を務めるファシリテーターの養成研修を2月24日から3日間の日程で開催しました。

第1回ファシリテーター研修は、各支所から1名(医師または看護師)招集し、計14名の構成で実施しました。研修プログラム策定グループのメンバーが講師となり、プロジェクト専門家とテクニカルアシスタントのサポートを受けながら、各テーマの役割分担を決めて講義を展開しました。研修内容には、「妊産婦管理台帳」「産前健診」「妊娠性高血圧症候群」「産後出血」「乳幼児健診」の5項目に、喫緊の課題である「ジカ熱対策」が加えられました。研修テキストをベースにしたパワーポイント教材の使用法、各項目の解説方法、事前事後テストの実施方法、技術強化のための演習方法、グループワークの進め方、ビデオ教材の活用方法などについて、3日間学習しました。参加者からは、研修プロ

ラム策定グループを中心に、両SILAIS、保健省本省関係者とともに作り上げてきた研修プログラムに対して、「ポイントを絞った研修で有意義であった」「他のテーマも取り扱ってほしい」「こういう研修を続けてほしい」などの意見が寄せられました。今後は育成されたファシリテーターが各支所のESAFICを対象に、今回使用した教材を活用して指導を行っていきます。これによって、ESAFICの研修システムを築く第一歩が踏み出されました。



## ヘルスプロモーション研修実施

「ヘルスプロモーション」と聞いた時に多くの医療従事者は、「今までも、いろいろやってきた!」と答えます。確かにそのとおりなのです。医療従事者は診察の待ち時間に講話をしたり、住民に必要と思えることに対して、啓発活動を行っています。しかし、家庭地域保健モデル (MOSAF) のヘルスプロモーションは、医療従事者が一方的に保健情報を提供するのではなく、地域の健康に係わる問題を、住民と一緒に見極めるとともに、そこにある人的・物的資源をフル活用して、地域の力で住民が自身や家族の健康を維持増進させるための行動をとることを目指しています。

そこで、今までのヘルスプロモーションとこれから目指すヘルスプロモーションの違いを理解した上で、より効果的なヘルスプロモーションを実施していくために、2人の日本人専門家が講師を務め、8時間のヘルスプロモーション研修をカウンターパートと共に企画しました。対象者は、セラヤ・セントラルとチョンタレスの両保健管区の母子保健技術委員、各支所の研修ファシリテーター、保健管区職員で、ヘルスプロモーションの基礎知識を学び、演習やグループワークを通して計画立案まで実施する内容でした。6月15日にセラヤセントラル保健管区事務所において実施した研修には14人が参加しました。チョンタレス保健管区は対象者が多いため、16日と22日の2回に分けて当保健管区事務所において実施し、それぞれ13人と14人が参加しました。

研修の導入として、まずMOSAFにおけるヘルスプロモーションについて内容を確認しました。次に、ヘルスプロモーションを計画するにあたり必要な情報収集について、既存の地域診断用紙を用いて、どのように情報を収集し活用していくのかを説明しました。続いて、IEC (Information Education Communication: 情報・教育・コミュニケーション) とBCC (Behaviour Change Communication 行動変容を促すコミュニケーション) の理論を通して、どのように働きかければヘルスプロモーションの最大の効果が狙えるのかを、行動を変えない人をタイプ別に分類し、研修参加者の体験を交えながら考えていきました。そして、様々な情報伝達と学習の手法について、それぞれの手法の目的、効果の違いについて講義しました。

研修の後半では、前半で学んだ知識を整理し、地域の情報や資源を今後の啓発活動に、どのように活用していくのかを再確認し、知識の定着と普及を促すために、ヘルスプロモーションの実演とグループワークを実施しました。ヘルスプロモーションの実演では、母子栄養を例に、使用する手法や教材によってどう効果が変わるのかを体験し、グループワークでは、実務で取り組んでい

るテーマを例に、ヘルスプロモーションを行うために得ておくべき情報とその収集方法、対象者、実施者、実施場所、予算、実施方法に関して計画立案し発表しました。

参加者からは、研修での学びを日々の仕事で活かし、今後、評価・改善につなげていけるという意気込みが発言となって聴かれました。今後プロジェクトでは、各医療施設で作成・更新する保健情報ボードなどを観察し、研修の効果を確認・評価していきます。



公衆衛生・ヘルスプロモーション短期専門家



グループワークを発表するファシリテーター



公衆衛生・ヘルスプロモーション短期専門家

# 医師および看護師の卵が社会奉仕活動を開始

4月1日付で、チョンタレス保健管区に35人の医師と30人の看護師、セラヤ・セントラル保健管区に17人の医師と15人の看護師、1名の麻酔医、そして1名の理学療法士が、社会奉仕活動として配置されました。医師は大学で5年の教育を受け、1年の病院勤務、そして2年の社会奉仕活動を実施し、8年後に医師免許を取得できます。また、看護師は5年の教育と1年の社会奉仕により卒業証書を取得し、看護師として業務につけることとなります。

セラヤ・セントラル保健管区では、社会奉仕初日に研修を開催し、保健管区や支所の基本情報、疾病状況、また疫学情報が説明されました。また、プロジェクトが導入したレファラール・カウンターレファラールシステムについて学びました。



セラヤ・セントラル保健管区社会奉仕研修初日



エル・ラマ市マロン保健セクターに配属された社会奉仕中の医師

## 健康な家族は、集落の幸せ！

SILAIS Chontales プロジェクトオフィス  
Banco BDF, 3c. al sur, Juigalpa, Nicaragua  
Telefax : (505) 2512-2906, 2512-2625  
E-Mail: proyectosamani@gmail.com  
日本語Web:  
<http://www.jica.go.jp/project/nicaragua/008/index.html>  
スペイン語Web:  
<http://www.jica.go.jp/project/spanish/nicaragua/008/index.html>



「チョンタレス保健管区およびセラヤセントラル保健管区における母と子どもの健康プロジェクト」（2015年7月～2019年7月）は 両保健管区の妊産婦と2歳未満児を対象とした保健医療施設でのサービス提供能力、健康に関するコミュニティ活動、SILAISの行政能力の強化を行うことにより、質の高い保健医療サービスの利用促進を図り、母子の健康リスクを軽減させることを目的としています。

